SHARP

SHARP
COMPUTER
SOFTWARE

X68030/X68000対応

SX-WINDOW ver3.0
システムキット

導入マニュアル

CZ-294SS

マニュアル正誤および補足説明

SX-WINDOW ver3.0 ユーザーズマニュアル

（１）ページ　（フロッピーディスクでご使用の方へ）

同梱されている標準のSX-WINDOW ver.3.0 システムディスクをそのままコピーして使用されている場合、アイコンやメニュー、スタートアップメンテなどを変更した情報を終了時にディスクに書き込むことができません。

４７ページ １０行目　（システムアイコンとは　クリップボード）

誤　２．グラフィックデータが格納されたとき
「内容表示」をＯＮした時、次のポップアップメニューが表示されます。
合成表示・・・・・・・・格納されたデータをそのまま表示します。
イメージ表示・・・・・・格納されたデータの元絵を表示します。
マスク表示・・・・・・・格納されたデータの輪郭形状を表示します。
パレット表示・・・・・・格納されたデータのパレットを表示します。
ウィンドウサイズ・・・・格納されたＰＩＣＴデータをウィンドウのサイズで表示します。
実寸・・・・・・・・・・格納されたＰＩＣＴデータを実寸で表示します。

↓

正　２．グラフィックデータが格納されたとき
「内容表示」をＯＮした時、次のポップアップメニューが表示されます。
格納されたグラフィックデータがＰＡＴ４形式の場合
合成表示・・・・・・・・格納されたデータをそのまま表示します。
イメージ表示・・・・・・格納されたデータの元絵を表示します。
マスク表示・・・・・・・格納されたデータの輪郭形状を表示します。
パレット表示・・・・・・格納されたデータのパレットを表示します。
格納されたグラフィックデータがＰＩＣＴ形式の場合
ウィンドウサイズ・・・・格納されたＰＩＣＴデータをウィンドウのサイズで表示します。
実寸・・・・・・・・・・格納されたＰＩＣＴデータを実寸で表示します。

１０８ページ 下から８行目　（コントロールパネル　背景設定）

誤　「自動ペースト」がチェックされているときに、クリップボードからペーストすると、ただちに背景に反映され確認することができます。
「自動ペースト」がチェックされていないときは、背景確認窓にのみ反映されます。

↓

正　「自動ペースト」をチェックすると、データをコピーやカットしてクリップボードに格納するだけで自動的にペーストします。

１３８ページ　（ＨＤフォーマット）

HDﾌｫｰﾏｯﾄ.Xの実行に当たっては、SXKERNEL.Xが必要になります。ハードディスクでお使いの場合など、SXWIN.ENVのPATH設定をｼｬｰﾍﾟﾝ.Xを利用して変更してください。
（パス設定にSXKERNEL.Xがあるディレクトリを指定してください。）

１４４ページ　（ＨＤフォーマット）

１４４ページの内容を実行する前に、SX-WINDOW ver.3.0 システムディスクのHUMAN.SYSアイコンをドライブアイコンＣ（ハードディスク）上にドロップし、システムファイルをコピーしてください。
「システム属性のファイルです。コピーしますか？」と確認メッセージが表示されますので［実行］をクリックしてください。

１７０ページ 下から１２行目　（グラフィックウィンドウ　背景設定）

誤　「自動ペースト」をチェックすると、ペーストやドロップしたときに自動的にウィンドウに貼り付けます。

↓

正　「自動ペースト」をチェックすると、データをコピーやカットしてクリップボードに格納するだけで自動的にペーストします。

１７４ページ 下から１行目　（ＣＧビジョン）

誤　アニメーション表示中は、ウィンドウの下にボタンが表示されます。

↓

正　「ＣＧビジョン」ウィンドウでは、ウィンドウの下に次のようなボタンが表示されます。

日本語マルチフォントエディタユーザーズマニュアル

３５ページ 下から５行目 （網掛け、下線、ルビなどを設定する）

誤 下線幅の設定

正 文字下ドット数

９５ページ 下から７行目 （外部コマンドの実行）

誤 例

M1,'　　OD,#32　　　＊ #32は何もしない機能コード

また、　　＋[1]または、[ESC]・[CTRL]＋[C]を押す（#221を実　　と、「外部コマンド起動」というメッセージが表示されます。

正 例

M1,'key',$0D,#32　　　＊ #32は何もしない機能コード

また、[OPT.1]＋[1]または、[ESC]・[CTRL]＋[C]を押す（#221を実行すると、「外部コマンド起動」というメッセージが表示されます。

Human68k ver3.0 ユーザーズマニュアル

９３ページ １４行目 （ＦＡＳＴＯＰＥＮ）

誤 -f ファイル名２１文字全てを認識します。

正 この設定はご使用になれません。（削除してください。）

２３３ページ 下から６行目 （ＥＸＣＯＮＦＩＧ）

誤 以後、選択画面に移行するためのキーが起動時に押されていない場合、このCONFIG.TMPを読み込んで実行します。

正 ただし、この操作のあとでも選択画面に移行するためのキーが起動時に押されていない場合、CONFIG.SYSを読み込んで実行します。

X-BASIC ver2.0 ユーザーズリファレンスマニュアル

（１）ページ 下から３行目 （はじめに）

誤 日本入力・語辞書ユーティリティユーザーズマニュアル

正 日本語入力・辞書ユーティリティユーザーズマニュアル

はじめに

このたびは、「SX-WINDOW ver3.0 ｼｽﾃﾑｷｯﾄ」をお買い上げいただき、まことにありがとうございました。
「SX-WINDOW ver3.0 ｼｽﾃﾑｷｯﾄ」は、Ｘ６８０３０／Ｘ６８０００のために作られた、オリジナルウィンドウシステムです。
ご使用に際しては、必ず本説明書に記載されている操作方法・注意事項をよくお読みいただき、正しい操作によって有効に活用されるようお願い致します。

商品構成は、下記の通りです。

品名	数量
SX-WINDOW ver3.0 システムディスク・・・・・・・・・・・	１枚
SX-WINDOW ver3.0 アプリケーションディスク・・・・・・・	３枚
Human68k ver3.0 システムディスク・・・・・・・・・・・・	１枚
辞書ディスク・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	１枚
導入マニュアル・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	１冊
SX-WINDOW ver3.0 ユーザーズマニュアル・・・・・・・・・	１冊
日本語マルチフォントエディタユーザーズマニュアル・・・	１冊
日本語入力・辞書ユーティリティユーザーズマニュアル・・	１冊
Human68k ver3.0 ユーザーズマニュアル・・・・・・・・・・	１冊
X-BASIC ver2.0 ユーザーズリファレンスマニュアル・・・	１冊
登録カード・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	１枚

また、本マニュアルは SX-WINDOW ver.3.0、Human68k ver.3.0、ASK68K ver.3.0を導入するにあたっての予備知識に関してまとめています。まず、本書をお読みになった上で各マニュアルをお読みください。
なお、他の各マニュアルはＸ６８０３０本体同梱用のものと共通のものを使用しています。

<ご注意>

１．本書の内容については万全を期して作成致しましたが、万一ご不審な点や誤り記載もれなど、お気付きのことがありましたら、もよりのシャープお客様ご相談窓口あるいはお買い求めの販売店にご連絡ください。
２．運用した結果の影響については、１項にかかわらず責任をおいかねますのでご了承ください。
３．本書および本ソフトの内容に関しては、将来予告なしに変更することがあります。
４．本書の内容の一部または全部を無断転載することは、禁止されています。
５．付属の登録カードは必ず弊社までご返送ください。無登録の方は、一切のユーザーサポートが受けられませんので、ご注意ください。

目次

1. ご使用いただく前に

1．1 バックアップコピーの作成

本製品には、種々のプログラムやデータが含まれた大切なフロッピーディスクが添付されています。これらのフロッピーディスクを不慮の事故から守るために、ご使用になる前に必ずバックアップコピーを作成し、実際の操作ではバックアップディスクをお使いください。

バックアップコピーの作成にあたっては、ブランクディスク６枚を用意し、「SX-WINDOW ver3.0 ユーザーズマニュアル」の”３－３ バックアップコピーとは”の内容にしたがって操作をしてください。

＊バックアップコピーは、”FORMAT”、”DISKCOPY”コマンドで行うこともできます。

1．2 ハードディスクでのご使用の前に

まず、ハードディスク上の必要なファイルのみをあらかじめ”BACKUP”コマンドまたは、”COPY2”コマンドを用いてフロッピーディスクに保存してください。

それから、

- SX-WINDOW ver.3.0 をご使用の場合は、「SX-WINDOW ver3.0 ユーザーズマニュアル」
  ”４－１２ ＨＤフォーマット”を参照して操作を行ってください。
  なお、「SX-WINDOW ver3.0」は、Human68k ver.3.0 上での使用を前提につくられています。
- Human68k ver.3.0 をご使用の場合は、「Human68k ver3.0 ユーザーズマニュアル」
  ”２．８　内蔵ハードディスクの初期化と領域確保”
  ”２．９　システム、辞書ディスクの内容を内蔵ハードディスクに転送する”
  を参照して操作を行ってください。

各操作が終了しましたら、”RESTORE”コマンドまたは、”COPY2”コマンドを用いてハードディスクに必要なファイルを戻してください。

（”RESTORE”、”COPY2”コマンドの詳細については、「Human68k ver3.0 ユーザーズマニュアル」を参照してください。）

1．3 従来の辞書の利用

従来の ASK68K ver.1.0/ver.2.0 の使い慣れた辞書ファイルを ASK68K ver.3.0 でご利用いただくことも可能です。

ご利用に当たっては、辞書ユーティリティの"データ変換"を行ってください。
なお、ASK68K ver.3.0 では使用する辞書ファイルは１つになっていますので、従来のメイン辞書とサブ辞書を同時にご利用になりたい場合は、各々の辞書を"データ変換"後、"辞書マージ"を行ってください。
（詳細については、「日本語入力・辞書ユーティリティユーザーズマニュアル」の"４ 辞書ユーティリティ"を参照してください。）

1．4 従来のアイコンパターン、背景設定、ポップアップメニューの利用

SX-WINDOW ver.3.0 では、SX-WINDOW ver.2.0 で追加・編集したアイコンパターン、背景設定、ポップアップメニューは次の手順で再登録する必要があります。

● **アイコンパターン**
まず、SX-WINDOW ver.2.0 のシステムで追加したアイコンパターンを、 SX-WINDOW ver.2.0 上でパターンエディタを利用してあらかじめ一度ファイルに保存してください。
次に、SX-WINDOW ver.3.0 上でパターンエディタを起動してそのファイルを読み込んで登録してください。

● **背景設定**
まず、SX-WINDOW ver.2.0 上で背景設定のデータをパターンエディタにコピー＆ペーストした後、ファイルに保存します。
次に、SX-WINDOW ver.3.0 上でパターンエディタを起動してそのファイルを読み込んだ後、背景設定にコピー＆ペーストし登録してください。

● **ポップアップメニュー**
SX-WINDOW ver.2.0 のシステムで登録したポップアップメニューは、SX-WINDOW ver.3.0 上では利用できませんので、SX-WINDOW ver.3.0 上であらためて再登録し直してください。

（詳細については、「SX-WINDOW ver3.0 ユーザーズマニュアル」の"４－８ パターンエディタ"、"５ 操作手順のまとめ"、"デスクトップの背景を設定する"を参照してください。）

2. IOCS. Xについて

Ｘ６８０００シリーズでＩＯＣＳコールを高速化するためのデバイスドライバです。
このデバイスドライバによりグラフィックの描画、テキスト文字の表示などが高速になります。

ＣＯＮＦＩＧ．ＳＹＳに次のように設定してください。

```
DEVICE=¥SYS¥IOCS.X
```

IOCS.Xには次のような機能（コマンドオプション）があります。

/D ・・・・・グラフィックの描画およびIOCSの文字出力を高速化します。
　　　　（OSの文字出力は高速化しません）
/G ・・・・・グラフィックの描画のみを高速化します。
　　　　（OSの文字出力ならびにIOCSの文字出力は高速化しません）
/R ・・・・・IOCS.Xの組み込みを解除します。
　　　　（コマンドモード上のみで有効となります）

たとえばグラフィックの描画のみを高速化する場合は、CONFIG.SYSファイル内の、IOCS.Xの行にオプションを追加し

```
DEVICE=IOCS.X /G
```

と設定するか、コマンドモード上で

```
IOCS /G
```

と入力してください。

（ＣＯＮＦＩＧ．ＳＹＳの詳細については、「Human68k ver3.0 ユーザーズマニュアル」の
”第７章　システムの構築”を参照してください。）

3．ＳＣＳＩ規格以外のハードディスクをご使用の場合

ＳＣＳＩ規格以外のハードディスクをご使用の場合、装置の選択／"FORMAT"コマンド、起動スイッチ／"SWITCH"コマンド の操作・設定がＳＣＳＩ規格のハードディスクと異なります。

３．１ 装置の選択／"FORMAT"コマンド

● **装置の選択**

SX-WINDOW ver.3.0 の"ＨＤフォーマット"を起動したときの装置の選択で、ＳＣＳＩ規格以外のハードディスクは、HD0 ～ HD14 ハードディスクと表示されますので該当する表示を選択してください。
（詳細については、「SX-WINDOW ver3.0 ユーザーズマニュアル」の"４－１２ ＨＤフォーマット"を参照してください。）

● **"FORMAT"コマンド**

"FORMAT"コマンドをメニュー画面から起動した場合、"ハードディスク" の項目が表示されますので、その項目を選択して操作を行ってください。
（詳細については、「Human68k ver3.0 ユーザーズマニュアル」の"FORMAT"を参照してください。）

３．２ 起動スイッチ／"SWITCH"コマンド

● **起動スイッチ**

SX-WINDOW ver.3.0 のコントロールパネルから起動スイッチの設定を行う場合、次の設定項目があります。

接続ＨＤの最大装置番号

指定できるパラメータは、偶数の番号になっておりその番号以下の装置番号が使用できるようになります。たとえば、2 を指定した場合、HD0 ～ HD2 が使用可能になります。

起動装置

・ＨＤ
ハードディスクドライブからシステムを起動します。HDの後ろにつく 0 ～ 14 は、起動するドライブ番号を表します。なお、ハードディスク内蔵タイプのX68000では、内蔵しているハードディスクドライブは HD0 に対応し、外部に接続されているハードディスクドライブはそのドライブ（装置）番号によって HD2 ～ HD14 に対応します。
（SCSI規格の装置からシステムを起動する場合は、ＳＣＳＩを選択しSCSI0～SCSI7のいずれかを設定してください。）

（詳細については、「SX-WINDOW ver3.0 ユーザーズマニュアル」の"メモリや起動装置を設定する"を参照してください。）

● "SWITCH"コマンド

Human68kを起動する装置の設定（BOOT）

・HD0～HD15
ハードディスクドライブからシステムを起動します。HDの後ろにつく 0 ～15 は、起動するドライブ番号を表します。なお、ハードディスク内蔵タイプのX68000では、内蔵しているハードディスクドライブは HD0 に対応し、外部に接続されているハードディスクドライブはそのドライブ（装置）番号によって HD2 ～ HD15 に対応します。
ハードディスク内蔵タイプのX68000に限ってドライブ番号の 1 というのは無効になりますから、HD1 は使用しないでください。
（SCSI規格の装置からシステムを起動する場合は、SCSI0～SCSI7で設定してください。）

接続しているハードディスクのドライブ（装置）番号の設定（HD_MAX）

・HD_MAX=<パラメータ13>

指定できるパラメータは、接続しているハードディスクの中で最も大きいドライブ（装置）番号に１を加えた値です。キーワードは" H=" と略すこともできます。
ハードディスクを内蔵していないX68000では、0 ～ 16 までの範囲で指定できます。
ハードディスク内蔵タイプのX68000では、内蔵しているハードディスクドライブのみ使用する場合は 1 を指定し、外部に接続されているハードディスクドライブも使用するときは、その中で最も大きいドライブ（装置）番号に 1 を加えた値（ 3 ～ 16 ）を指定してください。ハードディスク内蔵タイプのX68000に限ってドライブ番号の 1 というのは無効になりますから、ここでは 2 は使用しないでください。

（他のメモリスイッチ設定については、「Human68k ver3.0 ユーザーズマニュアル」の"SWITCH"を参照してください。）

４．ＳＣＳＩ対応内蔵ハードディスクのＩＤ変更について

ＳＣＳＩ対応内蔵ハードディスク（CZ-623C/644C内蔵ハードディスク、CZ-604C/634Cに CZ-68Hを内蔵してご利用の方）は、次のＨＤＩＤコマンドを使用してＩＤ変更を行ってください。

ＨＤＩＤ

外部コマンド

機能　内蔵ハードディスクのＩＤ番号変更

書式　ＨＤＩＤ

解説　ＨＤＩＤコマンドはＳＣＳＩ対応内蔵ハードディスク（Ｘ６８０００シリーズ）のＩＤを変更するときに使用します。

ＨＤＩＤ↵

と入力すると、ＳＣＳＩ装置のメニューが画面に表示されます。
内蔵ハードディスクをカーソルキーの↑↓で選択して↵を押します。
するとメニューの右側にＩＤ番号が表示されますので、カーソルキーの↑↓で番号を選択して↵を押してください。

＊ＣＰＵ本体のＩＤ番号は、ＳＷＩＴＣＨコマンドで行ってください。
　なお、同じＩＤ番号を複数の装置には使用できません。

シャープ株式会社

本　　　社　〒545 大阪市阿倍野区長池町22番22号
電子機器事業本部　〒329-21 栃木県矢板市早川町174番地
AVCシステム事業推進室
お問い合わせ先　〒162 東京都新宿区市谷八幡町８番地　電話 (03)3260-1161(大代表)
市ケ谷ビル内　電子機器事業本部　AVCシステム事業推進室　ソフトウェア担当